

UNSCEAR2020/21報告書に 日本側はどう関与したか

～出版記念講演会～

2023年5月13日

田口 茂

(NPO放射線安全フォーラム、NPO市民科学研究室
明らかにする会、UNSCEAR2020/21レポート検証ネットワーク)

はじめに(背景)

1. 日本政府はどう関与したか
 - 1-1. 報告書作成までの経緯
 - 1-2. 外務省から特別拠出金
2. UNSCEAR2020/21レ報告書作成の構成メンバー
3. 国内対応委員会はどう関与したか
(位置づけとメンバー、記事録等)
4. UNSCEAR第67回会合参加者
5. 「日本作業グループ」はどう関与したか
(鈴木元氏と明石真言氏の関与,不作為・問題行動)
6. パブリックミーティングでの不信感
7. メディアのUNSCEAR批判
8. UNSCEARが非科学的である5つの理由
9. UNSCEARへの公開質問
10. UNSCEARの公開質問から見えてきたもの
・関連サイトと論考・著書

はじめに(背景)

1)2021年3月にUNSCEAR 2020/21レポートが発表。

『放射線被ばくが直接の原因となる健康影響(例えば発がん)が将来的に見られる可能性は低い』※ との日本語のプレスリリースに違和感。

日本のメディアや国民をミスリード ※本文では必ずしも健康影響を否定していない。

2)経口摂取と吸入摂取の内部被ばくの線量評価に多くの疑問・疑惑。

更に、鈴木元氏の論文『40のシナリオ』(住民の被ばく線量推定)への疑念

3)日本作業グループ(旧放医研主体の5名)が強く関与。

- ・都合のよい論文やデータを恣意的に選択して、結論を誘導していないか？
- ・量研・明石眞言氏と国際医療福祉大・鈴木元氏との私的つながり(共同論文多数)で、明石氏らが鈴木氏の論文(特に『40のシナリオ』)を意図的に優先した事実が無いのか？



- ・2021年9月にUNSCEARへの公開質問。(3週間後に部分的な回答)
- ・国内対応委員会事務局の旧放医研へ情報公開請求。

1. 日本政府はどう関与したか

1-1. 報告書作成までの経緯

(首相官邸のHPより抜粋：https://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka_g28.html)

1) 年次会合で課題を決定

(2011年5月国連総会で**福島原発事故調査レポート作成を承認**)

2) 世界中の調査研究資料(主に論文)を収集・整理・評価

(**明石眞言氏**ら5名の**日本作業グループ**が大きく関与)

3) 指名されたコンサルタント(**専門家グループ**)と事務局が報告書案を作成

4) 加盟各国にコメントを求める (27加盟国、オブザーバー:4ヶ国、11機関)

(日本では**明石眞言氏**や旧放医研主体のメンバーや**鈴木元氏**ら18名で構成された**国内対応委員会**が対応)

5) 年次会合でさらに精査(第66回:2019年11月、第67回:2020年11月に開催)

6) 報告書最終案を取りまとめ(**2020年11月開催**の第67回会合。21年3月に公表)

(日本からの会合参加者、特に**明石氏**らが大きく関与)

1-2. 外務省からの特別拠出金

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ms/fa/page25_001570.html

1) 事業の目的：

放射線の影響に関する**過度の不安を払拭すべく**、国内外への客観的な情報発信を促進

2) 拠出金額：1.41億円

①2013年度：7100万円、 ②2017年度：7000万円（改訂版作成）

3) 資金の流れ

外務省→UNSCEARE→事務局職員の人件費及び査読を行う**外部専門家への謝礼**※

※**これでは公正・公平に査読が実施されているのか疑問**

4) 合意文書：

用途を福島第一原発事故の**放射線影響評価活動に限定**

5) 外務省による事業の自己評価：

『**評価が客観的であると国際的に認められている機関は他になく、国内外の客観的な情報発信には非常に効果的**』としている

注：被災者たちが日本政府や東電を訴えた**裁判**で、日本政府の拠出金（**国民の税金**）によって作成された（**作為的な？**）報告書を「中立で」「国際的に権威ある」「科学的知見」として**日本政府の弁護・擁護**に使っていることになる。

2. UNSCEAR2020/21報告書作成の構成メンバー

- 1) 調整専門家グループ(上級技術顧問、**明石真言氏**ら英国、ドイツから3名)
- 2) 専門家グループ※(ドイツ、英国、オーストラリア、フランス、ロシア(注1)、米国等から9名)
- 3) 公衆被ばくタスクグループ ※執筆者 注1:**バロノフ氏**
(フランス、米国、ロシア、ウクライナ等から5名。オブザーバとしてIAEAと日本)
- 4) 大気拡散タスクグループ
(**日本4名**(注2)、ドイツ、フランス(2名)、英国(2名)から9名)
注2: 森口氏(元東大)、赤羽氏(旧放医研)、茅野氏(JAEA)、永井氏(JAEA)
- 5) 日本作業グループ (日本の論文やデータ収集提供し、技術的アドバイス実施)
旧放医研:**明石真言**、赤羽恵一、青野辰雄(福島再生支援研究所)
JAEA:茅野政道(理事)、放影研:小笹晃太郎)
- 6) 批判的査読者
(ドイツ、米国、フランス、英国、スウェーデン等から13名)
- 7) その他の寄与専門家
(オーストラリア、ドイツ、ノルウェー、ウクライナ等6名)

3. 国内対応委員会はどう関与したか (首相官邸のHPより抜粋)

https://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka_g28.html

- UNSCEAR事務局らが作成した報告書案に対する**コメント**が各国に求められる。

- 文部科学省や原子力安全委員会事務局などの支援のもとに、18人の委員で「**UNSCEAR国内対応委員会**」を組織。

(他に100人近いコメンテーター)

- UNSCEAR報告書案を精査し、UNSCEAR事務局に**コメント**や必要な**追加情報を提供**。
- 事務局は量研・放射線医学総合研究所(**旧放医研**)。

3-1. 国内対応委員会メンバー

- 1) 旧放医研のメンバー：**明石真言氏**ら事務局（神田玲子氏ら）3名含め計8名
- 2) それ以外のメンバー：
放影研（2名）、電中研、JAEA、長瀬ランダウエア、東京医療保健大、国際医療福祉大（**鈴木元氏**）、広島大、京大、近畿大、久留米大から計19名（事務局3名含む）で構成。
- 3) オブザーバ：文科省、原子力規制庁、環境省（4名）、外務省。

注1：**メンバー選定には明石氏が大きく関与？**（議事録から想定、**御用学者ばかり？**）

注2：2020年11月2日～6のUNSCEAR第67回会合に先立ち開催された日本国内対応委員会で説明された改定案は鈴木氏や明石氏の思惑通りもの。従い、UNSCEAR2020レポート内容は鈴木氏や明石氏らが事務局にまとめさせた日本案がUNSCEAR第67回会合でほぼ通ったと見て良い。

※この委員構成からも**明石氏が鈴木氏と組んで**、UNSCEARレポートを恣意的に矮小化している構図がうかがえる。

3-2. 第29回国内対応委員会議事録(1)

(2020年10月12日開催)

1) 福島報告書の改定について事務局より説明
(情報公開請求で入手。内容黒塗り)

・2019年までに受理された論文等のレビューが行われており、
(67回)本会合にて承認を目指す予定。

・新しい報告書では、改定(※)された放出量のデータ、個人線量や空間線量のデータを使用。

・日本人のヨウ素吸着率(1/2)や屋内における空气中放射性核種のフィルター効果(1/2)などを考慮し、より現実的(注:矮小化した!)な線量推定実施。

⇒外部被ばく線量は若干上昇。摂取による内部被ばく線量は劇的に減少。

※この改定されたデータが吸入や経口摂取内部被ばくを矮小化したもの(筆者追記)

3-2. 第29回国内対応委員会議事録(2)

(2020年10月12日開催)

- ・福島フォローアッププロジェクトのSenior technical advisorは**明石**前代表、放影研から1名、量研から3名
 - ・量研(**旧放医研**)から1名UNSCEAR**事務局に派遣**
 - ・**健康影響**については**2013年報告書**の見解は引き続き**有効**。
 - ・14か国から723件のコメントのうち、63件のコメントを技術的検討。
クリティカルなコメントは無かった。
- 2) UNSCEAR 67回会合の審査予定のドラフトに対するコメントを10月16日まで提出するよう委員に依頼
 - 3) **アウトリーチ活動**が2021年5月に予定
(**実際には何度も延期され2022年7月に実施**)
 - 4) **国連総会議長**への説明(2020年10月に実施)
各国代表への説明(2020年12月に実施)

4. UNSCEAR67回会合（最終報告書決定）参加者

- 1) 2020年11月（2～6日）に開催（国内対応委員会は10月に開催）
- 2) 2020/21レポートの最終的な決定の場
- 3) 日本からは旧放医研の7名含め以下の9名が参加（合計220名）
 - ①量研（旧放医研）：中野隆史、明石眞言、神田玲子、他に量研から4名
 - ②放影研：1名（小笹晃太郎）
 - ③広島大：1名計9名参加
- 4) 参加者は3つの分科会を分担
- 5) 福島事故関連分科会は明石氏と量研の2名が担当（注）

注：明石氏や鈴木氏らが中心となってまとめた日本案がUNSCEAR事務局に提案された。

他の2名も量研であり、明石氏の思惑が強く反映されたものと推定

5. 「日本作業グループ」はどう関与したか

- ・UNSCEAR内に設置された「日本作業グループ」のメンバーは5人。
(放医研の**明石氏**、赤羽氏、青野氏とJAEAの茅野氏、放影研の小笹氏)
- ・「日本人作業グループ」はレポートを直接執筆はしていないが、
詳細分析や**情報提供**に強く関与。
- ・特に日本からの論文や情報を執筆者である専門家グループに提供し、
提言を行う事がミッション。



恣意的な論文選択は可能。(注8)

注8：甲状腺がんの多発は**放射線の影響**であるとした津田論文や加藤論文等は
問題※があるとして**評価の対象から外された**。(※問題の明示は無い)

5-1 明石眞言氏と鈴木元氏との関与

1) 明石眞言氏の関与

- ・UNSCEAR内の**調整専門家グループ**及び**日本作業グループ**と**国内対応委員**を兼務
- ・被ばく線量を小さく見せるような都合の良い論文や、鈴木元氏の線量矮小化論文（40の避難シナリオ）を優先して取り上げ、執筆者の専門家グループに提供したり、コメント（強要？）したりする事は容易な立場。

2) 鈴木元氏の関与（詳細は5-2参照）

- ・いわき市でのパブリック・ミーティングで執筆者の一人である**バロノフ氏**が、日本人の甲状腺への取り込み率を**1/2**にしたのは**鈴木氏の提言**を採用したと**暴露**。
- ・**国内対応委員**、福島県**甲状腺評価部会長**
- ・『**40の避難シナリオ論文**』等がUNSCEARに採用させた。

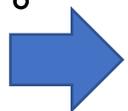
5-2 鈴木元氏の関与

～福島県健康調査検討会で甲状腺評価部会長の発言議事録(2021年5月開催)～

- 2013年報告と大きく違っているのは、日本人の放射性ヨウ素が甲状腺に取り込まれる率はICRPの標準的モデルの30%ではなくて、**もうちょっと低い(15%)**

- 日本人の特性に合わせ、ヨウ素131の**甲状腺等価線量換算係数**を修正する。

これで**約50%線量(1/2に)**が変わった。



バロノフ氏が鈴木氏の関与を暴露

- 屋内退避による吸入被ばくの線量低減係数が、2013年報告では福島県民全員、寒空の中、外にいたという評価になっていた。それを**50%の屋内退避効果(1/2へ)**があるという形で再評価。



JAEAの永井氏が鈴木氏の関与を暴露

(廣内君の実験データに基づき、鈴木元先生がばらつき(0.1から1)の**中央値**として用いたものを、UNSCEARも採用したのです。)

この2つで**内部被ばくは大体4分の1の線量に**。(それ以外にも**矮小化**あり)

注:()内や  部のコメントは筆者追加

5-3 原発事故当時の明石氏と鈴木氏の不作為・問題行動(1)

①明石眞言氏：

- ・放射線の影響は少ないとして、**1080人**以外のスクリーニング調査を止めるべき、疫学調査は不要と政府に**進言**。(注9)
被ばくの実態が分からなくしてしまった。
- ・更にスクリーニングの基準を**1.3万cpm**から**10万cpm**に認めるよう国に依頼。

(後日、東京新聞・榊原記者の取材でこの文書の非を認めている(注10))

注9: 東京新聞「こちら特報部」(2019.2.4)によると『放医研は甲状腺測定を早く始めるよう国に促す立場。オフサイトにいた保田氏の「甲状腺被ばくは深刻なレベル」と、早期対応を放医研に求めたが「**所内でコンセンサスが取れていないので保留**するように明石センター長から指示があった」と返事』。明石氏の背信行為は明らか。「福島が沈黙した日」榊原崇仁著P169～P174

注10: 「福島が沈黙した日」榊原崇仁著P169～P174

5-3 原発事故当時の明石氏と鈴木氏の不作為・問題行動(2)

②鈴木氏元氏:

- ・ヨウ素剤配布の失態。
- ・スクリーニング基準作成に関与。

- ・明石氏と鈴木氏は過去同じ時期に放医研に在籍し、共同研究論文も多数存在。

自分達の不作為の責任逃れの為にも、住民の被ばくの影響を小さく見せたいとの二人の思惑は一致。

- ・日本作業グループが提供した都合のよい論文やデータをもとに、執筆者(専門家グループ)が公正・中立に議論したとしても、もともと偏った論文やデータでの議論では結論が偏る。UNSCEARの公正・中立性とする説得性には欠ける。

- ・執筆する専門家グループは日本作業グループや国内対応委員会の偏向した鈴木氏らの情報を容易に受け入れている。⇒執筆者のバロノフ氏

6. パブリックミーティングでの不信感

1) 7月19日の東工大（2回実施）

①小生からの質問（ネット上からの質問）

出荷制限がかかる3月26日までは、住民は自家栽培や流通していた放射能で汚染された

野菜や牛乳を摂取しているが、その**内部被ばくを無視**しているのではないか？

②UNSCEARの回答：「**インパクトは低い**」と**何の科学的根拠も示さず**一方的な回答。

2) 7月21日のいわき市

①2時間のうち予定を超過し1時間以上も内容の無いUNSCEARからの説明に終始。

②多数の**間違い**や**疑念**を科学者や市民から出されたが、納得いく回答は得られなかった。

③**バロノフ氏**が、日本人の甲状腺への取り込み率を**1/2**にしたのは**鈴木氏**の提言を採用したと**暴露**

④多くの質問が出され、時間が足りず時間延長や午後の意見交換会を要求したが、次の予定※があるとして終了。

※UNSCEARに住民のデータ提供をした南相馬市と楡葉町に御礼挨拶に行った。

7. メディアのUNSCEAR批判（1）

いわき市でのパブリックミーティングや福島県庁での『UNSCEAR2020レポート検証ネットワーク』の記者会見等をきっかけに、NHKや東京新聞、朝日や産経、福島民報、そして地元月刊誌・政経東北等が批判報道し始めた。UNSCEAR報告書を再検証すべきとの一部の世論形成に大きな影響力を与えた。

1) NHK

『国内の研究者らで作るグループが、甲状腺被ばくの原因となる放射性物質のヨウ素131が、原発事故の発生直後、大気中にどれだけ存在したか試算した部分で、元となった論文のデータを誤って引用し、被ばく量を少なく評価しているなどと指摘しました。』

『グループ側は結論の撤回を求めています。』と報道。（UNSCEARの主張も報道）

<https://www3.nhk.or.jp/news/fukushima/20220720/6050019402.html>

2) 東京新聞

『誤ったグラフやデータが複数ある。論文引用の誤りで被ばく線量の過小評価をしている。科学的な報告書とは程遠い』との研究者グループの批判をUNSCEAR主張と併記。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/191115>



風評が科学を凌駕する

①

東北総局
〒980-0803
仙台市青葉区国分町2-14-1
定禅寺パークビル3F
電話 022-221-3321
FAX 022-216-1741
tohoku@sankei.co.jp

青森支局 aomori@sankei.co.jp
盛岡支局 morioka@sankei.co.jp
秋田支局 akita@sankei.co.jp
山形支局 yamagata@sankei.co.jp
福島支局 fukushima@sankei.co.jp

購読申し込み・配達・集金
0120-34-4646

紙面・記事
0570-046460

Web
https://www.sankei.com/region/

広告お申し込み
宮城 022-267-6611
青森・秋田・岩手 019-651-5861
山形 023-688-7060
福島 022-263-3911

THE SANKEI NEWS

ウェブでも
ニュース発信中
www.sankei.com

国連科学委の福島原発事故報告

「報告書の結論は堅固なものだ。(放射線)被曝に直接起因すると思われる健康被害は認められなかった。被曝による将来のがん発生率もこれに足りない水準にとどまるだろう」

7月19日、東京・内幸町の日本記者クラブ。「原子放射線の影響に関する国連科学委員会」(UNSCEAR)前議長のリリアン・ハースは表情を変えずにこう述べた。言及したのは平成23年3月の東京電力福島第1原発事故の健康影響に関し、UNSCEARが昨年3月に公表した「2020年/2021年報告書」(20年報告)だ。

がん急増と無関係

福島県は事故当時18歳以下の県民ら約38万人を対象に、超高度度の超音波検診を行い、平成23年10月から5巡目の昨年9月までで274人が甲状腺がん、または疑いと診断された。小児甲状腺がんの患者は100万人に年間数人程度だが、福島では単純計算で同約70人が発症したことになる。甲状腺がん患者は1986年のチェルノブイリ

被曝「健康被害ない」に反発も



市民らとの対話集会に臨む原子放射線の影響に関する国連科学委員会のリリアン・ハース前議長(奥の左から2人目) =7月21日、福島県いわき市(奥原慎平撮影)

原発事故後に現地で急増しており、福島での多発は被曝に起因すると主張する声は根深い。

この点を20年報告は「被曝の結果ではない」と否定する。がん急増の原因については「超高度度の検診手技が、認識されていなかった甲状腺異常の有病症例を明らかにした」と明記した。福島では高性能の診断装置が検診に用いられ、健康に影響が生じていないがんを多数発見したということだ。

日本など31の加盟国が任命する専門家で構成するUNSCEARは、放射線が人体や環境に与える影響についてほぼ全ての関連論文を精査し国連に報告する。

その中身は国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告や国際原子力機関(IAEA)のガイドラインの根拠になる。政治的独立性の確保には注意を払い、例えば福島原発事故の報告書の執筆者に当事国の日本の専門家は就くことはできないという。

説明不足、誤解招く

一方、UNSCEARが20年報告作成に当たり日本から7千万円の資金を提供されたため、被曝影響を小さく見せようとする意図がある(市民団体)という声もくすぶる。日本政府の「意向」が反映されるという、科学者の職業倫理をおとす見方だが、そう

いう一部の人々にもハースらは向き合った。

7月21日、いわき市の会議室で開かれた対話集会。ハースらは出席者側から「UNSCCEARがいう「独立」は被害者から独立し、政府側に立つことか」「UNSCCEARの報告書に一般市民は議論する機会が与えられなかった」

集会ではUNSCEARが主催したが、20年報告の結論撤回を求める緊急声明やハースらを追及する質問の事例集も並び、ハースらが質問も会場後方でスタッフがフに方向を誘導し、質疑の疑念客の際に司会席に陣取るようにする人もいた。

市民団体が用意した配布資料によれば、20年報告の補足資料は、甲状腺がんを引き起こしかねない放射性ヨウ素について、大気中から地表にどの程度移行したかを試算する係数「沈着速度」が3桁少なく表記されているという。

であれば、UNSCEARは20年報告で被曝量の推定値を過小評価していることになる。

高エネルギー加速器研究機構名誉教授、黒川真一は指摘を受けた20年報告の主執筆者の博士、ミハイル・バロノフは、補足資料の表記を一部訂正する考えを示した上で、こう述べた。

20年報告は文部科学省が平成23年6、7月に福島で実施した放射性ヨウ素と放射線セシウムの土壌濃度の調査データを引用し、事故時の大気中のヨウ素濃度を推計した部分がある。黒川氏は「減衰補正」されているが、このことは補足資料に明記されていないなど誤解を生じさせる内容になっているという。

鈴木は産経新聞の取材に「放射性ヨウ素の減衰補正を考慮すれば、被曝量の推定値は本文と同じになる。補足資料は係数や補正に関する説明不足の部分があり(黒川氏の)誤解を招いたのだ。ただ、UNSCEARは科学的にリーズナブル(適正)なやり方をしている」と懸念を打ち消した。

(敬称略、肩書は当時)

再逮捕容疑は、令和2年5月2日午前11時午後1時

東日本大震災とそれに伴う津波によって発生した福島原発事故。被曝の過大な影響評価が、福島県に及ぼしている影響や差別、偏見の実態を追った。

宮城知事、国葬参列を表明

再逮捕容疑は、令和2年5月2日午前11時午後1時

ナ侵攻に伴う物価高騰

子連れのクマに襲われ

産経新聞記事 (東北版)

https://www.sankei.com/article/20220912-6MX20TC3TZIOVHAHXDG4OBDWLU/

7. メディアのUNSCEAR批判（2）

3) 産経新聞

『**風評は科学を凌駕する**』との7回連載記事の第1回目で、いわき市でのパブリック・ミーティングを取り上げた。

- ・ UNSCEARが20年報告書作成にあたり日本から**7000万円**の資金が提供され為「**被ばく影響を小さく**見せようとする**意図**がある」という声もくすぶる
- ・ UNSCEARがいう独立は被害者から独立し、政府側に立つことか
- ・ 20年報告の結論撤回を求める緊急声明やハースらを**追及する質問**の事例集も並ぶ
- ・ **沈着速度が3桁少なく**表記されている。
- ・ UNSCEARは20年報告で被ばく量の推定値を**過小評価**していることになる。
- ・ 会場からは**反発の声**が上がった。

との記事を、鈴木元氏の**意味不明**の反論と共に併記した。

7. メディアのUNSCEAR批判（3）

4) 朝日新聞

『**被ばく影響割れる見解**』と、両論併記の記事を10月6日に国内研究者たちの批判記事を報じた。

① 本行忠志大阪大名誉教授

- 「被曝に関する様々な要因に対し、推定しうる最小値かそれ以下の値を採用して**大幅な過小評価**をしている」と批判。
- 被曝線量の引き下げにつながった「昆布効果」の問題の裏付けデータが、**55年前**にわずか**15人**を調べたもので「全く参考にならない」。
- 直近の日本人のヨウ素摂取量は世界標準と比べて多いと言えず、評価は**事実に基づいていない**。
- 避難中の食品による被曝も、事故直後は**汚染された野菜などが市場に出回っていた**ことが明らかになっており、「不確実なものには最大値を採用する**予防原則にも逆行する**」と指摘。

7. メディアのUNSCEAR批判（4）

4）朝日新聞（続き）

② 津田敏秀岡山大教授：

- ・ がん多発の原因とされた**過剰診断説**は「**科学的に検証されていない**」

③ 種市靖行医師：

- ・ 過剰診断を防ぐため、甲状腺がんの腫瘍の大きさについて、**厳格な基準に基づいて検査**。5ミリ以下の結節を精査してはず、命を脅かさない小さながんを見つけている**過剰診断にはあたらない**。
- ・ 高感度機器で、がんの詳細な形態がわかり、**手術に至る症例が減っている**。

「高感度機器は**過剰診断を防いでおり、報告書は逆のことを言っている**」

8. UNSCEARが非科学的である5つの理由(1)

- 1) UNSCEAR報告書を**チェック**する(第三者)**機能がない**。
 - ・チェックの欠如が**間違い**や**捏造**等多くの問題を発生。
 - ・日本作業グループが執筆者に提供した論文では結論が**歪め**られている。
- 2) UNSCEAR報告書は**中身と結論(※)**が**一致していない**。
 - ・内容と結論の一致は自然科学論文における最低限のマナー。
- 3) 公開質問やパブリックミーティングでも間違いの修正も公開もしない。
 - ・都合の悪い質問は**無視**するか、直接は答えない。
 - ・公開質問のQ&AをHPへの掲載要求も、**未だに公開**されていない。

※2020年3月のプレスリリース。国や多くの研究者、メディアは騙されている。

8. UNSCEARが非科学的である5つの理由(2)

4) 国内対応委員会とUNSCEAR間の**文書未公開**。(某ジャーナリスト情報)

- ・国際機関との信頼関係が損なわれると開示請求を**却下**。
- ・異議申し立ても、規制庁からUNSCEARに照会したが開示は望ましくないとの回答で、**不開示**は妥当との最終返事。

5) 再現不可能な**福島医大論文**を多数採用

- ・福島医大以外の研究者は県民健康調査のデータを利用不可の為、福島医大の論文の再現は不可能。
- ・他の研究者による**再現**できない論文は**科学論文**とは言えない。

注：これ以外にも多くの非科学的な間違い・隠蔽・歪曲を岡山大津田教授らが指摘。

9. UNSCEARへの公開質問 (2021年9月実施)

1. 初期の経口摂取線量の過少評価 (質問1、2)
2. 吸入摂取量の矮小化 (質問3~8)
3. 線量推計値の矮小化
 - ・ヨウ素の体内取り込み率を1/2に (質問9及び)
 - ・屋内避難効果の50%の疑問 (追加質問)
4. 内部被ばくの線量評価(線量係数)の矮小化(質問10)
5. 外部被ばく線量値の矮小化 (質問11)
6. 甲状腺がんの多発は放射能の影響 (質問12~18)
- ⑦. 日本作業グループの役割・ミッション (質問19)
- ⑧. UNSCEARの中立性への疑問 (質問20)
- ⑨. お願い

注: ○印は回答があったもの。それ以外は後日発行されるアタッチメントを見ろという回答。
しかしながら、アタッチメントには具体的回答の記載は無かった。

9-1 日本作業グループの役割・ミッションに関する質問と回答

【質問19】

日本作業グループはレポート執筆はしていないが、詳細分析には強く関与しているので、都合のよい論文やデータ**意図的**に選択して、**結論を誘導**していないか？

明石真言氏は鈴木元氏との私的なつながり(共同論文多数)があり、**鈴木氏の論文を優先的に採用した事実が無い**か検証すべき。UNSCEARとしての見解をお聞かせください。

【UNSCEARの回答】 (直接の回答は無く、日本作業グループのミッションを説明)

日本が指名したパートナーの専門家と機関は、このUNSCEAR報告書の評価と専門家グループを、特に以下の事項について支援。

- a. 関連する科学的および技術的出版物と研究計画を特定。
- b. 委員会および**専門家グループによる文献の要求に対応**。
- c. 公開された情報を解釈し、要求に応じてプロトコルと方法論の詳細説明。
- d. 報告書の草案に関する**技術的コメントを委員会に提供**。

9-2 公正・中立性に関する質問(質問20)と回答

【UNSCEARからの回答】

(直接は回答せず、一般論を説明)

- ・12の加盟国とオブザーバーからの**30人以上の国際的な専門家**が取り組み、13人の批評家が報告書をレビュー。
- ・200人以上の参加者**※**が参加した第67回委員会が報告書を検討し採択。
代表団は、UNSCEARセッションごとに、委員会の作業の統治原則に従って、科学的資格と**経験に基づいて**指名するよう求められ、科学的資格と経験に基づいて**科学的評価**を行うべきことを、再確認したい。 **※日本からは明石眞言氏はじめ9名参加**
- ・これらの専門家は、とりわけ、放射線科学に関連する幅広い科学的および技術的問題に関して**深い知識と経験を持ち**、科学的発展に遅れずについていき、効果的な支援を促進することが期待されている。
- ・彼らは**独立して行動し**、委員会の手続きや任務と矛盾する可能性のある外部からの圧力や利益に関連して、**偏見なく職務を遂行する**。
さらに、彼らは**誠実に行動し**、知的財産の問題を尊重する。

10. UNSCEARへの公開質問から見えてきたもの

- UNSCEARが採用した避難区域住民の40の避難シナリオ（注）には、避難が遅れたり、避難が困難な住民が3月15日、16日の**大量のプルームの吸入摂取**による**内部被ばくを無視**。
- 一時避難先で、炊き出しに出された高濃度に汚染された**露地野菜を食べたり**（注5②）、出荷制限前の3月23日まで**市場に出回っていた野菜**を食べたりした住民が**考慮されていない**等、多くの疑問・疑念がある。
 - 2021年9月下旬、UNSCEARに20項目以上の『公開質問』を提出した結果、3週間後に回答が届いたが、一部の質問以外は項目ごとの**質問には答えず**。
 - 2021年12月に発行予定（実際は2022年3～5月に発行）のアタッチメントを**読め**というもので、**直接の回答は得られなかった**。
 - 2022年3月～5月に発行されたアタッチメントには、公開質問への答えは含まれていなかった。**UNSCEARは都合の悪い質問を無視する非科学的な組織**である事が明確。
 - 公開質問のQ&AをHPに掲載するよう何度となく要求したが、**未だに未公開**。

注：40の避難シナリオ：各市町村住民の代表的な避難経路によって住民の被ばく値を推定

【参考】

関連サイトと論考・著書

★公開質問と回答

- ・UNSCEARへの公開質問(前半) <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2022-01-20>
- ・UNSCEARへの公開質問(後半) <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2022-01-20-1>
- ・UNSCESARからの回答 <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-11-22>

★関連記事

- ・UNSCEAR・国内対応委員会は公正・中立か <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-11-30>
- ・UNSCERALEポートの内部被ばくの矮小化 <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-10-09>
- ・UNSCEARレポートを捻じ曲げた黒幕は誰か? <https://nimosaku.blog.ss-blog.jp/2021-04-07>

★関連サイト

- ・UNSCEAR2020/21レポート検証ネットワーク <https://www.unscear2020report-verification.net/>
- ・原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする <http://fukushimakyoto.namaste.jp/akiraka/index.html>

★論考・著書

- ・白石草さん(Our Planet-TV代表)の『科学』と『週刊金曜』の論考
- ・榊原崇仁記者(東京新聞)の『科学』の論考と著書『福島が沈黙した日』

ご聴講ありがとうございました。

★被ばくは無かった事にしようとする政府や県に対し、真実を追求し
後世に伝える事が**大人(研究者)の責務・責任**。

★『**3. 11 甲状腺子ども被ばく裁判**』等で被害者が有利に闘える
環境作りが大事。

★『**ふくしまの真実**』の究明を継続しましょう！『**継続は力なり！**』

★**原発推進**に舵を切った岸田総理と**原子カムラ**の監視を！